

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,4 Chang GT



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

6月30日 | 天候:晴れ | 気温:29°C | コース: BURIRAM INTERNATIONAL CIRCUIT | 路面温度:35°C(非公式)



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

Qualifying Day Summary

連続入賞を狙うSYNTIUM LMcorsa RC F GT3はドライコンディションの公式練習で3番手と好調さをみせるがスコールによりウエットとなった予選では苦戦し予選Q1の突破はならず16位で終える

Qualifying Day

SUPER GT シリーズの中で唯一の海外大会となるタイラウンドが、タイ東部のブリラムにあるチャン・インターナショナル・サーキットで開催される。2014年から実施されているタイラウンドは、2015年のみ今回と同様の6月の開催となっていたが、昨年までは最終戦の前の10月に行なわれていた。今シーズンは、SUPER GTの年間スケジュールが変更されたことによって、タイラウンドが3年ぶりに6月の開催となった。

6月のタイは雨期の始まりで、10月開催のときも心配されていたスコールがサーキットを包み込むことも予想される。激しいスコールが降ればレースに影響を与えることは確実で、予選と決勝レースともにチームの戦略と采配が勝負を分けることが考えられる。

このようにシーズン前半に移動した第4戦の「Chang SUPER GT RACE」は、6月30日(土)と7月1日(日)の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、19日に公式練習と予選、20日に300kmの決勝レースが行なわれる。

LM corsaは、第2戦の富士スピードウェイが7位、第3戦の鈴鹿サーキットラウンドが5位と着実にポイントを重ねていて、第4戦のタイラウンドも入賞を目指しての戦いとなる。



Qualifying Day

30日は、早朝から日差しが差し込み、時より曇り空に覆われることもあるが気温は30℃付近まで上昇。路面温度も優に30℃を越え、ドライバーにもメカニックにも過酷な戦いとなった。公式練習は予定通りの10時からスタートし、11時25分までがGT500クラスとGT300クラスの計38台による混走で、11時25分から10分間がGT300クラスの専有走行となっていた。

10時のコースオープンとともにSYNTIUM LMcorsa RC F GT3には吉本大樹選手が乗り込んでコースイン。持ち込んだタイヤとセットアップを確認するために5回のピットインを繰り返して予定されたメニューを消化する。計21周を走行して18周目には吉本選手のベストタイムとなる1分33秒360をマーク。公式練習の後半になるとSYNTIUM LMcorsa RC F GT3には宮田利朋選手が乗り込んで、決勝レースを想定したロングランを実施する。18週のロングランを終えると、最後には予選のシミュレーションを実施して計測43周目にベストタイムとなる1分32秒703をマーク。公式練習は、合計で44周を周回して宮田選手がマークしたタイムにより3番手となった。



<予選>

公式練習が11時45分に終了し1時間半のインターバルを経て、13時15分からピットウォークが開始される。このころまでは晴れ渡っていた空だが、次第に雨雲がチャン、インターナショナル・サーキットに押し寄せ、14時を過ぎるとスコールがサーキットを襲った。コースは一瞬にして濡れて、コースの一部は冠水するほどの状況となる。スコールは30分ほどで止んだが、コースはウェットコンディションとなり、GT300クラスの予選Q1は予定されていた15時から15分ディレイとなり15時15分から30分までの15分間で競われた。

全車がレインタイヤで走行することとなった予選Q1は、吉本選手が担当。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、持ち込んでいるレインタイヤの中で柔らかめのタイプを選択する。インラップでタイヤに熱を入れると2周目からタイムアタックを開始。計測3周目に1分44秒477をマークする。この時点では予選Q1を突破する順位にいたが、コースコンディションが改善するとともに各車がタイムアップする。吉本選手はピットインを行ない、タイヤを交換し再びコースイン。計測6周目に1分43秒934を記録するが、予選Q1を突破するためにはコンマ4秒足らず、惜しくも18番手で予選を終えることとなった。

しかし、予選Q2に進出したマシンが予選後の車検で不通過となりタイムが抹消された。そのため、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は16番手から決勝レースを戦う。昨年のタイラウンドは21番手から6位まで追い上げたコースなので、上位進出が期待される。

Team Comment



Director : 飯田 章

今回は、公式練習から調子が良く予選も上手くいけそうな雰囲気はありました。しかし、予選前に雨が降ってしまいウエットコンディションが苦手な私達にとっては不運でした。それでも、予選 Q1 は突破できる状況だと思っていましたが、選択したタイヤもコンディションと合わず、天候の読みも外れました。公式練習の状態からすれば、ウエットでも期待を持って状況で臨んでいたのですが、甘かったのでしょうか。明日は 16 位からの追い上げとなりますが、ひとつでも上位に上がれるようにドライバーには頑張ってもらいます。



Driver : 吉本 大樹

公式練習では調子が良く予選前に雨が降って下位に沈むというのは、昨年と全く一緒のパターンになってしまいました。天候だけはどうしようもないですが、なぜこのタイミングで降るのかと恨んでしまうほどです。予選は、柔らかいコンパウンドのレインタイヤを選択して走ったのですが、コースインから数周こそグリップ感がありましたが、その後はタイムが伸びず、ピットに戻ってタイヤを替えてアタックを続けたのですが、予選 Q1 突破まで、コンマ 4 秒ほど足りませんでした。決勝レースは、昨年在り 21 番手から 6 位まで追い上げたので、その再来となれば良いと思います。



Driver : 宮田 莉朋

公式練習は、最初に吉本選手が乗り込んでセットアップやタイヤの確認を行なったのですが、スムーズにメニューを消化できたため、私の乗る時間が前倒しとなり、ロングランテストもこなせました。タイヤは初走行だったのですが、マシンのバランスが良く悩むことなく走れました。最後は予選のシミュレーションも行なって、3 番手のタイムが出たこともあり、予選にも期待が持てました。しかし、ウエットコンディションとなり予選 Q1 が突破できずに残念な結果です。明日は、追い上げる展開になるので、多少のリスクを負っても前のクルマを抜いて上位へ食い込めればと思います。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



Qualifying Day Summary

前戦の鈴鹿で初優勝を飾ったK-tunes Racing LM corsa RC F GT3が得意とするタイでも強さをみせ、予選Q1を新田選手が13位で突破し予選Q2で中山選手が7位を獲得。さらに繰り上がりにより明日の決勝レースは、5番手スタートから表彰台を目指す

Qualifying Day

SUPER GT シリーズの中で唯一の海外大会となるタイラウンドが、タイ東部のブリラムにあるチャン・インターナショナル・サーキットで開催される。2014年から実施されているタイラウンドは、2015年のみ今回と同様の6月開催となっていたが、昨年までは最終戦の前の10月に行なわれていた。今シーズンは、SUPER GTの年間スケジュールが変更されたことによって、タイラウンドが3年ぶりに6月の開催となった。



6月のタイは雨期の始まりで、10月開催のときにも心配されていたスコールがサーキットを包み込むこともあるはず。激しいスコールがレースに影響を与えることも予測され、予選と決勝レースともにチームの戦略や采配が勝負を分ける可能性も考えられる。

第4戦の「Chang SUPER GT RACE」は、6月30日（土）と7月1日（日）の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、19日に公式練習と予選、20日に300kmの決勝レースが行なわれる。

前戦の鈴鹿サーキットラウンドで、参戦開始からわずか3戦目にして初優勝を果たしたK-tunes Racing LM corsa。第4戦の舞台となるチャン・インターナショナル・サーキットは、昨年シーズンにRC F GT3が優勝を飾った相性の良いコースなので、前戦の優勝によって42Kgのウエイトハンデを積むものの上位入賞の期待は掛かる。



30日は、早朝から曇り空に覆われることもあったが、時折、日差しも差し込み気温は30℃付近まで上昇。路面温度も30℃を越え、ドライバーにもメカニックにも過酷な戦いとなった。公式練習は予定通りの10時からスタートし、11時25分までがGT500クラスとGT300クラスの計38台による混走で、11時25分から10分間GT300クラスの専有走行となっていた。

Qualifying Day

K-tunes RC F GT3 には中山雄一選手が乗り込んで公式練習を開始。数回のピットインを繰り返して、持ち込みのセットアップやタイヤを確認する。計測 10 周目にはラップタイムを 1 分 33 秒台に入れて、12 周目に新田守男選手にバトンタッチ。新田選手も 13 周を走行してマシンのバランスを確認する。その後は、再び K-tunes RC F GT3 に中山選手が乗り込み、持ち込んでいるタイヤの比較やセットアップを進めて 11 周を走行した。公式練習の最後に設けられた GT300 の専有時間になると新田選手が K-tunes RC F GT3 のステアリングを握り、予選のシミュレーションを実施。計測 39 周目に 1 分 33 秒 116 のベストタイムをマークし、公式練習を 10 番手で終えた。

<予選>

公式練習が 11 時 45 分に終了し、1 時間半のインターバルを経て 13 時 15 分からはピットウォークが開始された。このころまでは晴れ渡っていた空だが、次第に雨雲がチャン・インターナショナル・サーキットに押し寄せ、14 時を過ぎるとスコールがサーキットを襲った。コースは一瞬にして濡れて、コースの一部は冠水するほどの状況となる。スコールは 30 分ほどで止んだが、コースはウエットコンディションとなり、GT300 クラスの予選 Q1 は予定されていた 15 時から 15 分ディレイとなり 15 時 15 分から 30 分までの 15 分間で競われた。

15 分遅れでスタートした予選 Q1 は、新田選手が担当。コースオープンとともにアタックを始めて計測 4 周目に 1 分 46 秒 256 をマークするが、これでは予選 Q1 を突破することが難しいと判断し、チームは新田選手をピットに呼び戻す。メカニックの敏速な作業で、タイヤをソフト側のレインタイヤに交換し、新田選手は再びコースイン。翌周に 1 分 43 秒 516 をマークし、際どい争いとなったが 13 番手で予選 Q1 を突破した。

続く予選 Q2 は、レコードライン上が乾きだしたために全車がスリックタイヤでアタックを行なう。K-tunes RC F GT3 には中山選手が乗り込み計測を開始。徐々にコースコンディションが回復していく中で、計測 5 周目に 1 分 33 秒 110 のタイムをマークし、7 位を獲得した。しかし、予選終了後に 88 号車のランボルギーニと 10 号車 GT-R の車両規定違反が判明したために、K-tunes RC F GT3 は 5 番手から明日の決勝レースに臨むこととなった。

チャン・インターナショナル・サーキットは、昨シーズンに RC F GT3 が優勝した相性の良いコース。5 番手からのスタートだが、二連勝を目指して戦うことになる。



Team Comment



Director : 影山 正彦

今回は前戦で優勝したマシンのセットアップから若干の変更は加えましたが、ほぼ同様の状況で走り始めました。公式練習で最初に乗った中山選手は、バランスが良いとのコメントで、続けて新田選手にも確認してもらいましたが同様のコメントだったため、セットアップは変えることなく走行しました。タイムとしては10番手でしたが、トップから1秒以内に15台ほど入る状況で、予選は熾烈な展開が予想されました。予選Q1は、選択したタイヤが思うように発熱しなかったためにヒヤヒヤしましたが、無事に13番手で突破できました。ドライとなった予選Q2は、実力を出し切ったの7位だと思います。それでも上位2台が失格となり、明日の決勝レースは5番手からのスタートなので、表彰台を狙っていきたいです。



Driver : 新田 守男

公式練習で乗ったときはバランスが良かったのですが、タイムとしてはもう少し欲しかったですね。予選はQ1を担当し、チームとタイヤメーカーの判断により持ち込んだ中の硬めなレインタイヤを選択しました。しかし、最初の数周はグリップ感が薄く、段々と上がってはきましたが、このままだと予選Q1を突破できないかもしれないということで、ピットに戻ってソフト側のタイヤに履き替えました。最後までコースに留まっていたら、タイムアップが可能だったかもしれないので難しい判断でしたが、13番手ながらも突破できて良かったです。決勝レースは粘り強く戦い、蓋を開けてみたら表彰台争いをしているという展開にしたいです。



ktunes
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**